

# こころの便り

第248号

令和2年11月

〒679-1434  
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二  
株式会社新宮運送グループ  
代表/木南 一志  
kminami@shingu.co.jp  
電話079-1-755-1212



新宮運送ホームページ

## 慎む

新しい首相が決まり、政府はスピード感のある始まりを見せています。しっかりとした国づくりのために、揚げ足取りよりも、問題提起や解決策を提案できるように取り組んでいきたいものです。

「無私の日本人」磯田道史著 文春文庫刊  
を以前に鍵山相談役からいただきました。仙台藩で実際にあったことで穀田屋十三郎という人の話です。「殿、利息でござる」という映画にもなっておりますので、アマゾンビデオなら300円で観ることができます。

仙台藩の吉岡宿という貧しい村の話です。藩の財政が厳しくなる中、宿場間の物資輸送（伝馬役）は直轄地でないことから助成金もなく、その費用は宿場の大きな負担となっていました。そこで何とかこの負担を減らすことはできないかと穀田屋十三郎は考えて、直訴しようかと命がけの行動をとります。それを見て、知恵者の菅原屋篤平治が、藩に金を貸して利息で伝馬役の費用をまかなうという案を出しました。同じ思いを持つ人々が集まり、なけなしの金を集めていきます。

日本人はいつの時代も同じだなと感じるところがたくさんありました。お役人の理不尽な取り扱いは、名前を売るためにやっているのだからという非難や中傷、そこで決め事が作られたのです。

## 「つつしみの掟」

- 一、ケンカや言い争いはつつしむ
- 一、この計画について口外することをつつしむ
- 一、寄付するときに名前を出すことをつつしむ
- 一、道を歩く際も、つつしむ
- 一、飲み会の席でも、上座に座らず、つつしむ家が長く限り、子孫の代に至るまでつつしむ、というものです。

私が感動したのは、「この村を変えていくのは、ほんの少しでいいから、濁ったものを清らかにしようとしている人たちだ。」という言葉です。

実際にやってきた事実があるので、現代の私たちにもできないことはありません。政府がやるべきこと、行政や会社がやらないからだと批判ばかりするのはなく、自分は何ができるか、それを実行しつつ、堂々と意見を述べることに大切であると感じています。

コロナ禍で危機を迎えている今だからこそ、小さな実践を始めましょう。

- ・挨拶を自分から、そして、笑顔を添えて。
- ・ほんの少し自分から譲る。
- ・車で止まるときは、車間を開けて。
- ・「ありがとうございます。」をたくさん口にする。
- ・小さな力が必ず世の中を変える力になるのです。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

## 尋常小學校修身書 卷六 兒童用

### 第八課 沈勇

明治四十三年四月十五日、第六潜水艇は潜航の演習をするために山口縣新湊沖に出ました。午前十時、演習を始めると、間もなく艇に故障が出来て海水が侵入し、それがため艇はたちまち海底に沈みました。この時艇長佐久間勉は少しも騒がず、部下に命じて應急の手段を取らせ、出来るかぎり力を盡しましたが、艇はどうしても浮揚りません。その上悪ガスがこもつて、呼吸が困難になり、どうすることも出来ないやうになつたので、艇長はもうこれまでと最後の決心をしました。そこで、海面から水をとほして司令塔の小さな覗孔にはいつて来るかすかな光をたよりに、鉛筆で手帳に遺言を書きつけました。



遺書には、第一に艇を沈め部下を死なせた罪を謝し、乗員一同死ぬまでよく職務を守つたことを述べ、又この異變のために潜水艇の發達の勢を挫くやうな事があつてはならぬと、特に沈没の原因や沈んでからの様子をくはしく記してあります。次に

部下の遺族が困らぬやうにして下さいと願ひ、上官・先輩・恩師の名を書連ねて告別の意を表し、最後に十二時四十分と書いてあります。

佐久間艇長遺言  
部下の遺族が困らぬやうにして下さいと願ひ、上官・先輩・恩師の名を書連ねて告別の意を表し、最後に十二時四十分と書いてあります。

格言 人事ヲ盡シテ天命ヲ待ツ。

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせて頂いておりました。